



2012年3月期 決算補足説明資料

（中期経営計画ローリング含む）

2012年5月10日

アニコム ホールディングス株式会社
（証券コード:8715）

1. 2012年3月期決算概要

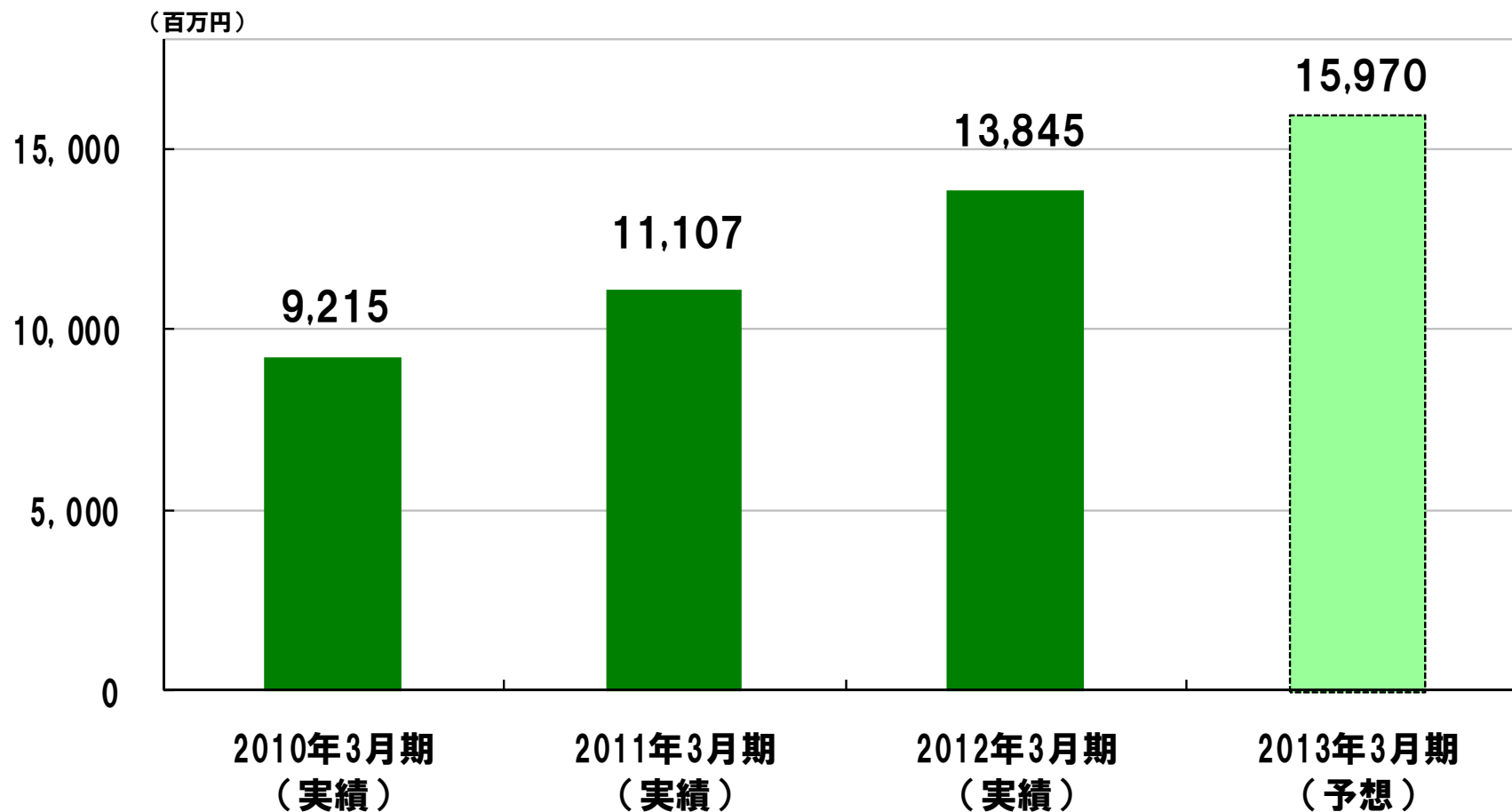
2. 2013年3月期業績予想

3. 中期経営計画ローリング2015

1-(1). 2012年3月期通期 連結業績概況

	2011年3月期 (実績)	2012年3月期 (8月10日予想)	2012年3月期 (実績)	対予想 増減率	対前年 増減率	2013年3月期 (予想)	対前年 増減率
経常収益	11,107	13,820	13,845	0.2%	24.7%	15,970	15.3%
保険引受収益	10,858	-	13,592	-	25.2%	-	-
(正味収入保険料)	(10,858)	(-)	(13,592)	(-)	(25.2%)	(-)	(-)
資産運用収益	94	-	108	-	15.7%	-	-
その他経常収益	154	-	144	-	-6.7%	-	-
経常費用	10,764	-	13,508	-	25.5%	-	-
保険引受費用	7,146	-	9,797	-	37.1%	-	-
(正味支払保険金)	(4,829)	(-)	(7,304)	(-)	(51.2%)	(-)	(-)
(損害調査費)	(392)	(-)	(480)	(-)	(22.2%)	(-)	(-)
(諸手数料及び集金費)	(629)	(-)	(780)	(-)	(24.1%)	(-)	(-)
(支払備金繰入額)	(152)	(-)	(348)	(-)	(128.1%)	(-)	(-)
(責任準備金繰入額)	(1,141)	(-)	(883)	(-)	(-22.6%)	(-)	(-)
(うち未経過保険料)	(793)	(-)	(942)	(-)	(18.7%)	(-)	(-)
(うち異常危険準備金)	(348)	(-)	(△58)	(-)	-	(-)	(-)
資産運用費用	8	-	31	-	264.7%	-	-
営業費及び一般管理費	3,312	-	3,392	-	2.4%	-	-
その他経常費用	296	-	287	-	-3.1%	-	-
経常利益	342	260	337	29.6%	-1.6%	755	124.0%
当期純利益	421	242	465	92.1%	10.4%	580	24.7%

1-(2). 経常収益の推移(連結)



- ・2012年3月期は13,845百万円(前年と比べ24.7%増)となり、順調な成長を継続しております。
- ・2013年3月期は対前年15.3%増の15,970百万円を予想しております。

1-(3). 2012年3月期通期振り返り

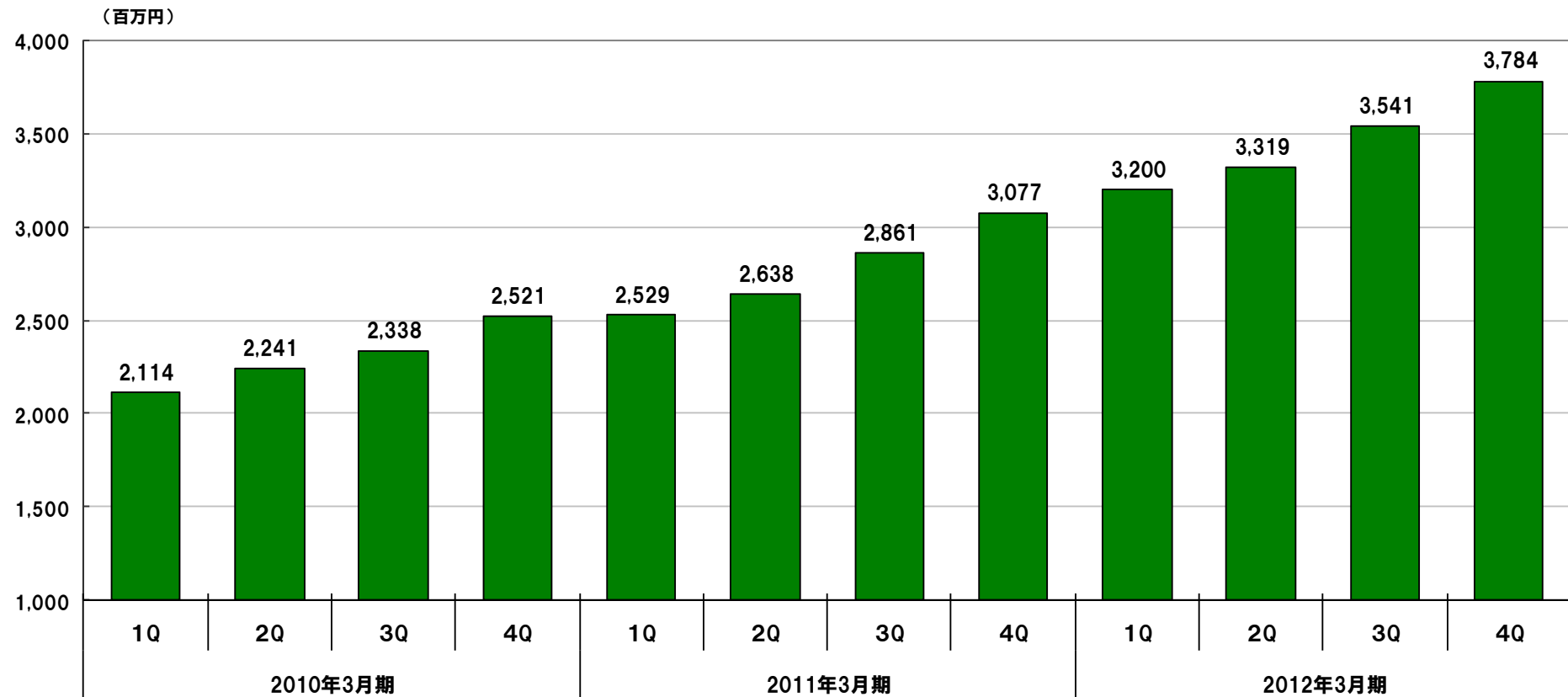
経常収益（保険料収入）	新規契約	ペットショップ代理店	○大型連休、クリスマス、年末年始キャンペーンの実施 ○付保率の向上を図り、新規契約の獲得は堅調に推移
		金融機関・カーディーラー 職域代理店等	○朝日生命における全国募集を2011年10月から開始 ○規模の大きな職域代理店との提携を強化 ○その他、生協、カーディーラー等代理店網の拡充を図る
	継続契約		○商品改定の好影響により、継続率は上昇傾向で推移 （前年度平均から1.0 ptの上昇）
経常費用	保険引受費用 （支払保険金、支払備金・責任準備金繰入額等）		○補償内容の拡充により、発生保険金が増加 ○異常危険準備金を取崩し
	営業費及び一般管理費		○経費管理の徹底、効果検証の強化等により抑制を図る ○IT/WEB化の推進等業務改善による経費効率化を継続
経常損益			○経常利益337百万円を確保 （前回予想の260百万円と比べ、新規契約の獲得強化と継続率の上昇により経常収益はやや上回り、一方発生保険金は下期から損害率が予想よりも低い水準で推移したため、前回予想を下回る。経費抑制効果も加わり、経常利益は337百万円で着地）

1-(4). 経営パラメーターの推移(損保単体)

	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	対前年末 増減率	2013年3月期 (予想)
保有契約数	290,767件	340,628件	396,234件	55,606件 (16.3%)	448,537件
ペットショップ代理店店舗数	1,097店舗	1,224店舗	1,224店舗	0店舗 (0.0%)	1,284店舗
一般代理店店舗数	1,934店舗	2,719店舗	2,875店舗	156店舗 (5.7%)	2,875店舗
平均継続率	84.1%	86.6%	87.6%	1.0pt	87.3%
対応動物病院数	4,621病院	4,853病院	5,115病院	262病院 (5.4%)	5,315病院

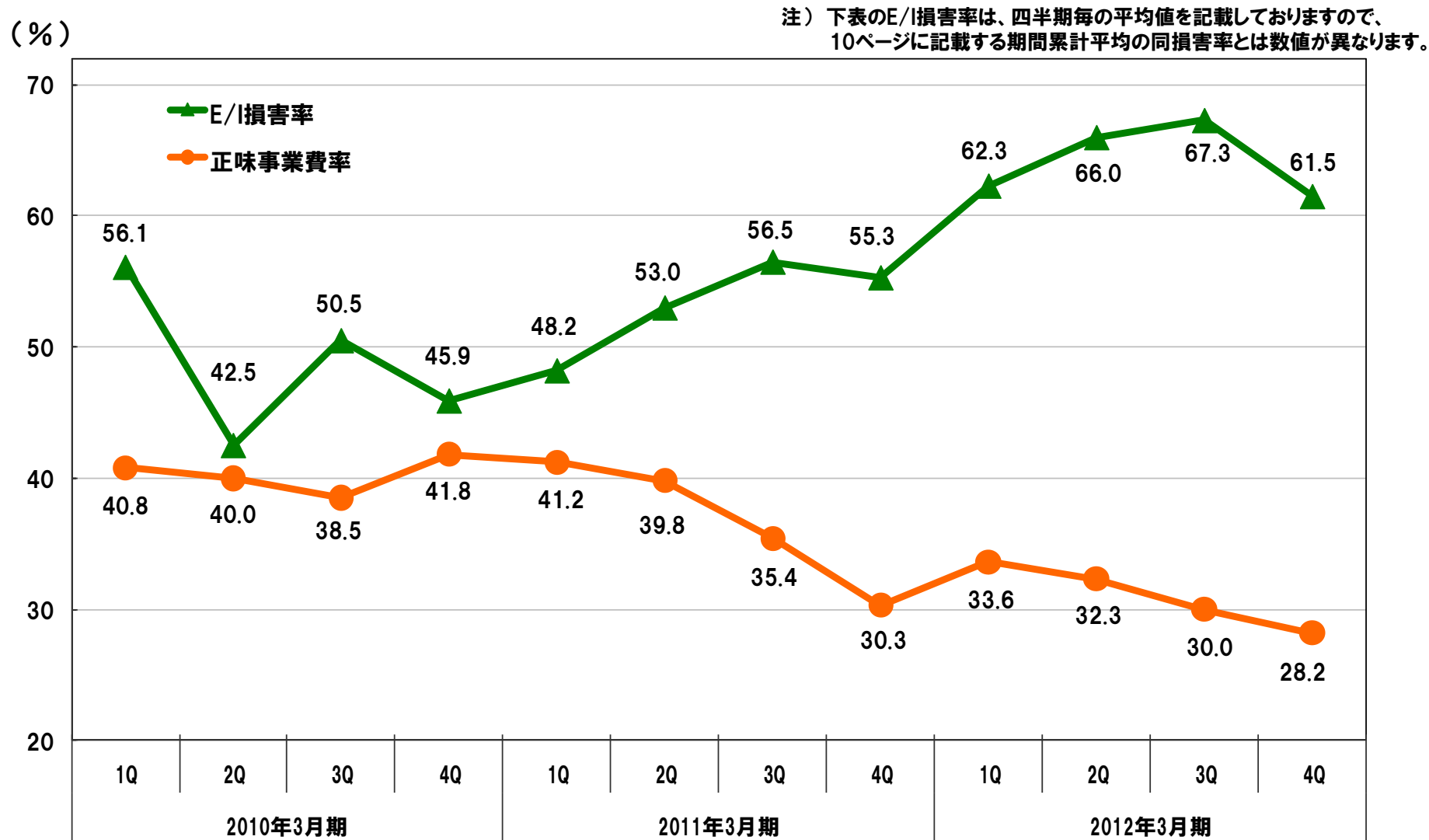
- ・保有契約数は着実に積み上がり、396,234件となりました(前年と比べ16.3%増)。
- ・代理店店舗数(ペットショップ代理店・一般代理店)については、新規開拓に努める一方、成績及び効率性の観点から見直しを進めました。このため、ペットショップ代理店では、解約数と新規登録数が同数(213店舗)となり、昨年と同規模の店舗数となりました。
- ・平均継続率は、商品改定(補償拡大)効果による上昇傾向が継続しており、87.6%となりました(同1.0pt増)。

1-(5). 経常収益の推移(四半期・連結)



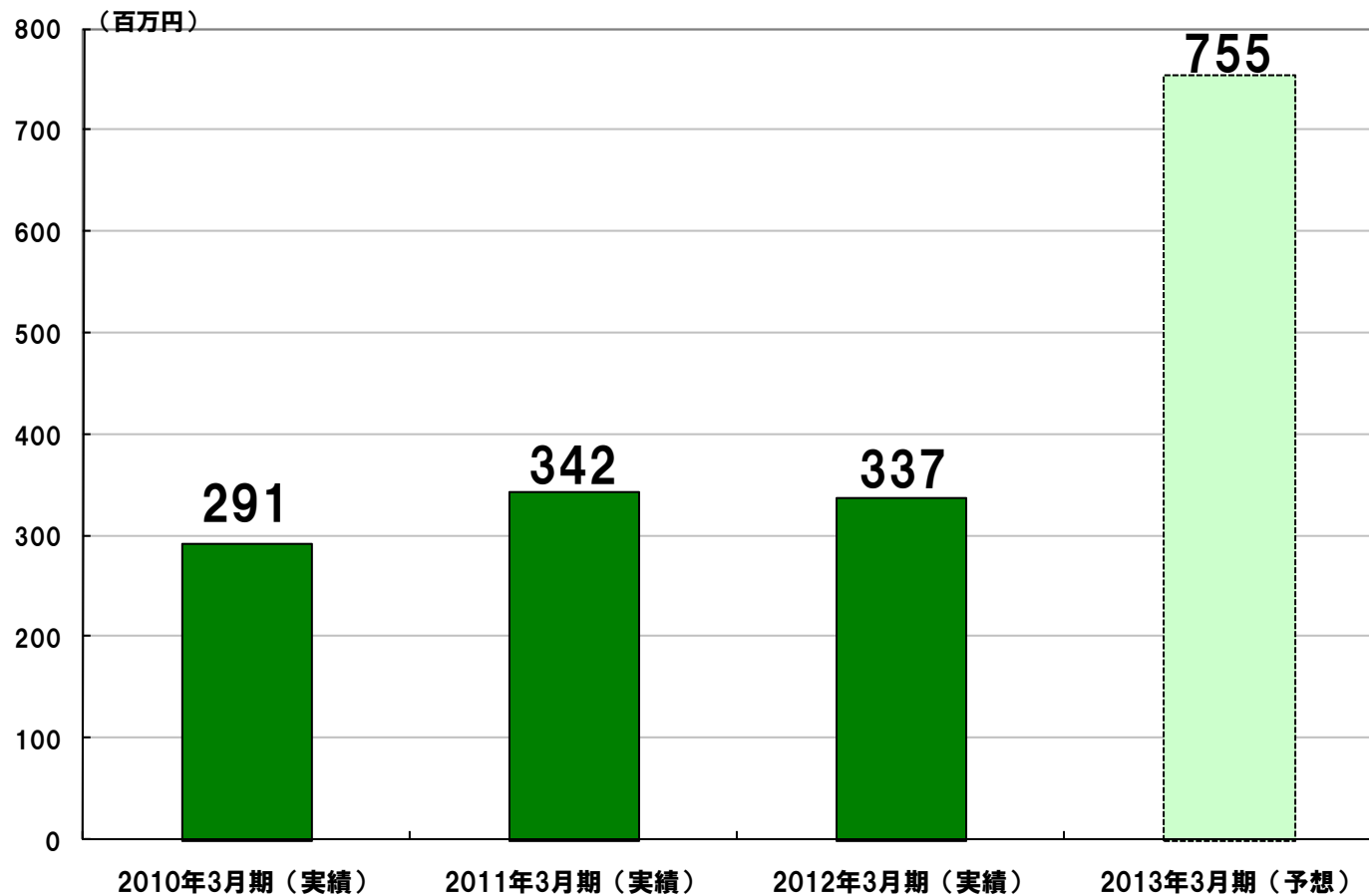
- ・保有契約数の伸びに伴い、経常収益は順調に増加しております。
- ・商品改定(補償拡大)による単価上昇は、2011年3月期3Qから経常収益の増加に寄与しております。

1-(6). 損害率・正味事業費率の推移(四半期・損保単体)



- ・経常収益に対する正味事業費率は、経費管理の徹底、効率化に向けた取組み等により、低下傾向で推移しております。
- ・E/I損害率は、商品改定(補償拡大)の影響により上昇傾向でありましたが、上昇インパクトが低減したこと、また、保険金請求の季節性(冬場は減少)を受け、4Qは大きく低下しております。

1-(7). 経常利益の推移(連結)



- ・経常利益は、337百万円(前年と比べ1.6%減)となりました。
- ・2013年3月期は、対前年124.0%増の755百万円を見込んでおります。

1-(8). 経営指標の推移(損保単体)

	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期 (予想)
①正味損害率(W/P) (正味支払保険金+損害調査費)/正味収入保険料X100	45.5%	48.1%	57.3%	63.1%
②E/I損害率 (正味支払保険金+支払備金積増額+損害調査費)/既経過保険料X100	48.6%	53.4%	64.3%	66.2%
③正味事業費率 (諸手数料及び集金費+保険引受に係る営業費及び一般管理費) /正味収入保険料X100	40.3%	36.3%	30.9%	29.3%
④コンバインド・レシオ(合算率) (正味損害率+正味事業費率=①+③)	85.8%	84.4%	88.2%	92.4%
⑤E/I損害率+正味事業費率 (②+③)	88.9%	89.7%	95.2%	95.5%
ソルベンシー・マージン比率(旧基準)	468.0%	482.8%	—	—
ソルベンシー・マージン比率(新基準)	—	304.1%	307.2%	278.3%

1-(9). 財務状態:貸借対照表(連結)

(百万円)

	2011年3月期	2012年3月期	対前期増減率
資産合計	13,382	15,355	14.7%
現金及び預貯金	3,682	5,098	38.5%
有価証券	7,065	7,444	5.4%
有形固定資産	96	93	-3.2%
無形固定資産	374	387	3.6%
その他資産	1,975	1,981	0.3%
うち保険業法第113条繰延資産	969	808	-16.7%
繰延税金資産	187	353	88.6%
負債合計	6,793	8,283	21.9%
保険契約準備金	5,920	7,152	20.8%
うち支払備金	653	1,001	53.4%
うち責任準備金	5,267	6,151	16.8%
その他負債	824	1,073	30.2%
賞与引当金	46	55	21.3%
純資産合計	6,588	7,071	7.3%
株主資本	6,569	7,067	7.6%
うち資本金	4,178	4,194	0.4%
うち資本準備金	4,068	4,084	0.4%
うち利益剰余金	△ 1,677	△ 1,211	-27.7%
評価・換算差額等	18	3	-79.0%
負債・純資産合計	13,382	15,355	14.7%

1-(10). 財務状況: キャッシュ・フロー計算書(連結)

(百万円)

	2011年3月期	2012年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,792	1,879
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,936	△ 1,044
財務活動によるキャッシュ・フロー	38	28
現金及び現金同等物の増減額	△ 104	864
現金及び現金同等物の期首残高	784	679
現金及び現金同等物の期末残高	679	1,543



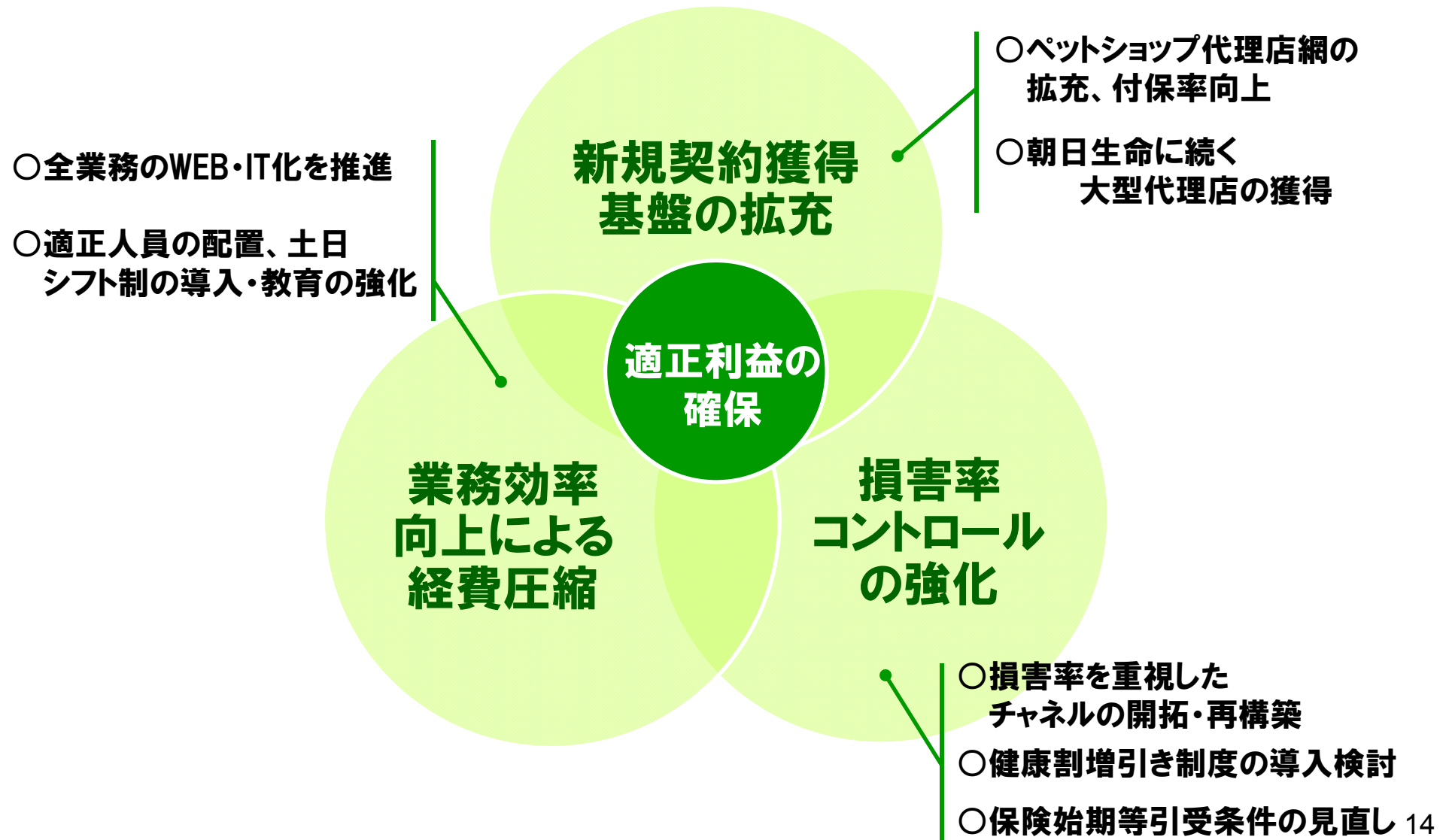
1. 2012年3月期決算概要

2. 2013年3月期業績予想

3. 中期経営計画ローリング2015

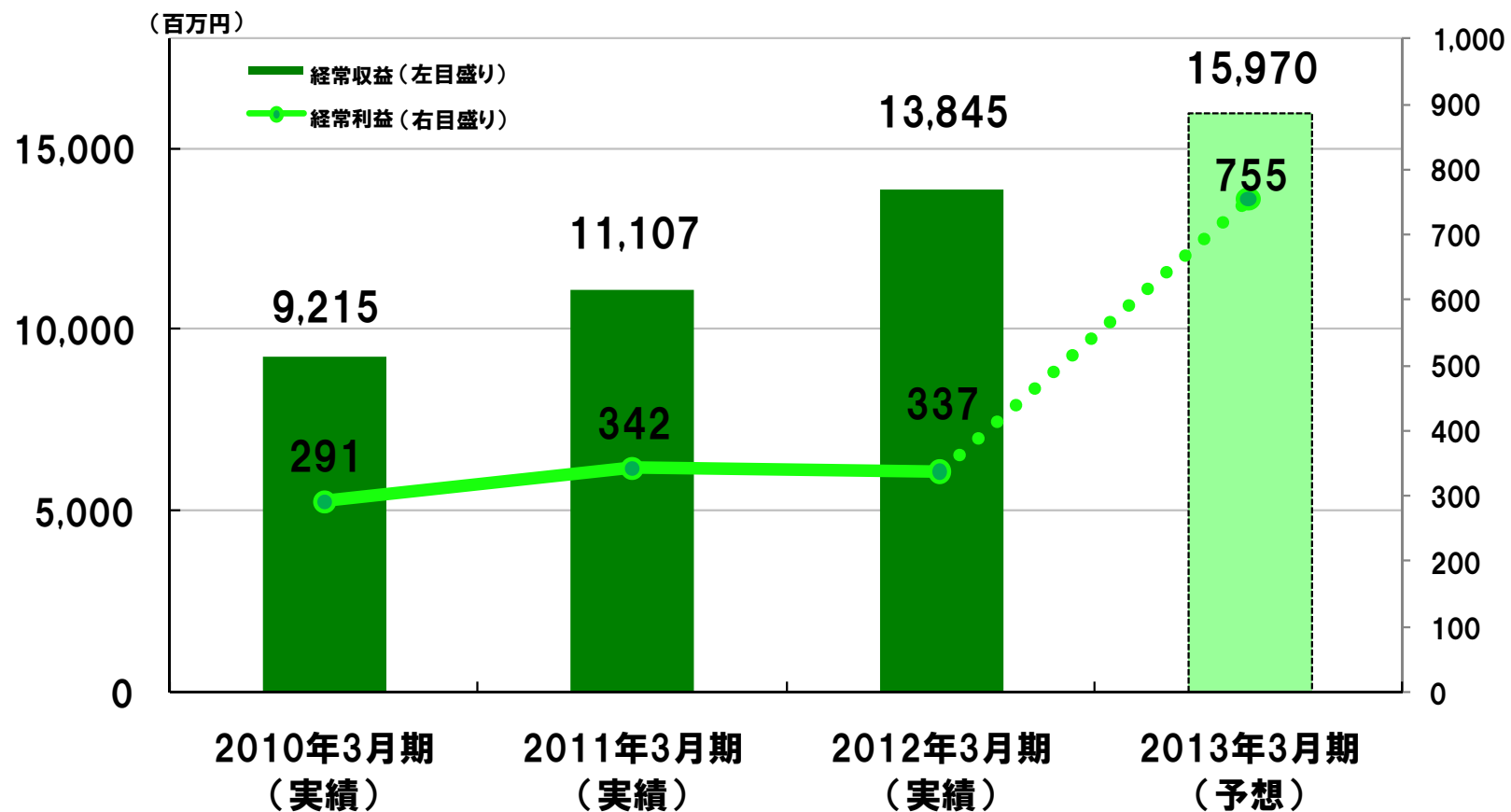
2-(1). 2013年3月期 重点施策

□当期は、適正利益の確保を図るべく、以下3つの重点施策を実行します。



2-(2). 2013年3月期 業績予想

□経常収益は、対前年15.3%増の15,970百万円、経常利益は同124.0%増の755百万円を予想しております。





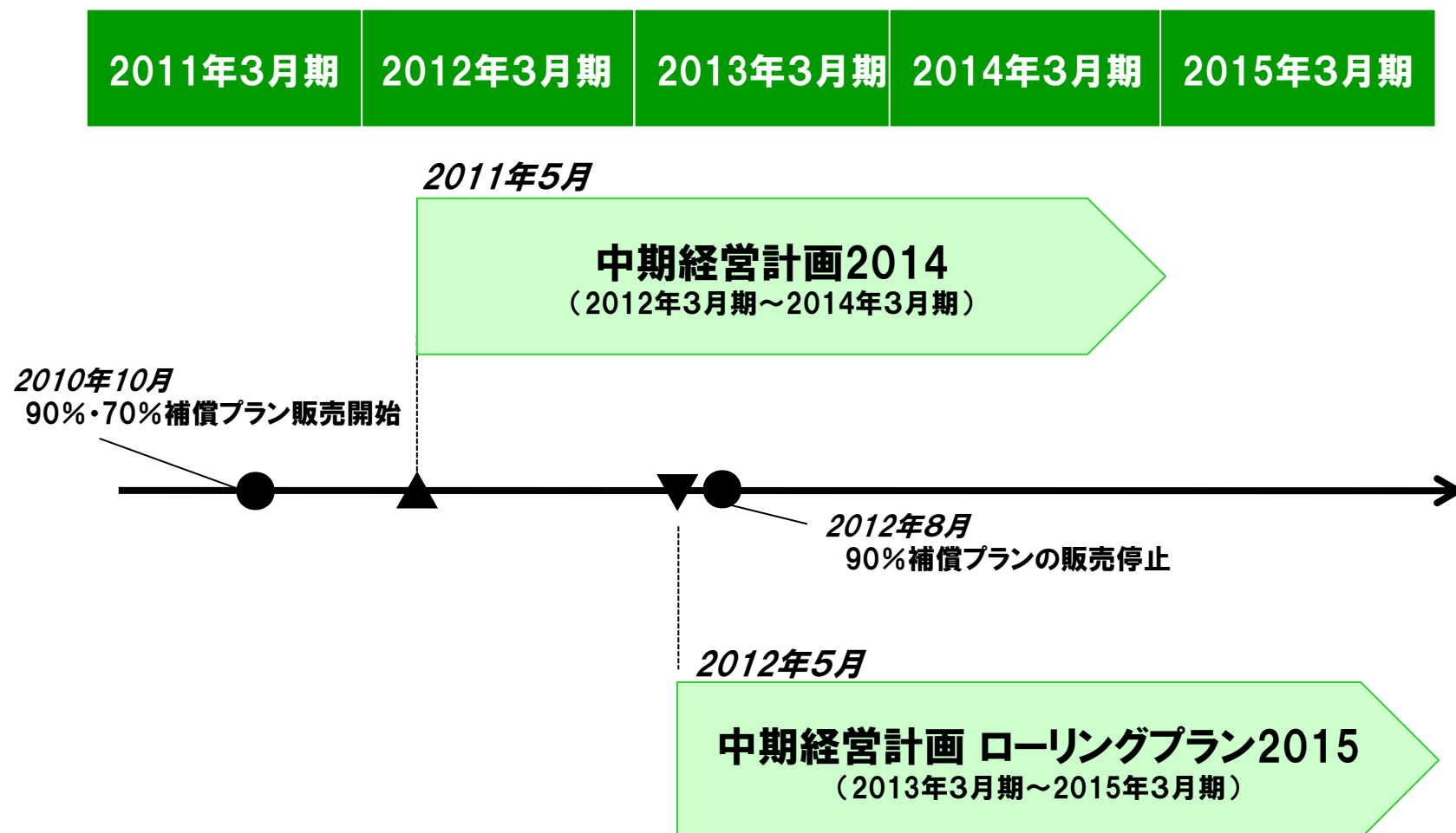
1. 2012年3月期決算概要

2. 2013年3月期業績予想

3. 中期経営計画ローリング2015

3-(1). 中期経営計画 ローリングプラン策定のねらい

- 中期経営計画は、3カ年の環境変化等を想定して策定するものですが、環境の変化に機敏に対応すべく、毎年のローリング(中期経営計画の再策定)を実施します。なお、基本は毎年実施しますが、大きな環境変化を認識する場合には、期中でのローリングを実施することとしております。
- 2011年5月10日に開示した、中期経営計画2014(2012年3月期～2014年3月期の3カ年計画)から環境変化等(詳細は次ページ以降)を考慮し、「中期経営計画ローリングプラン2015」を策定いたしました。



3-(2). 外部環境、内部環境の認識・想定

- 中期(3カ年)に亘る外部環境、内部環境を以下の通り認識・想定しております。
- 国内のペット保険市場は発展段階でありますので、成熟しつつあるペット関連市場全体のマクロ環境とは異なり、堅調な市場拡大を想定しております。

外部環境

- ・ペット関連市場は、今後も「室内飼育化」「小型犬化」「高齢化」「肥満化」に対応する商品、サービスが積極投入されることにより微増するものと想定
- ・生体の販売頭数は、横ばいもしくは若干の減少傾向で推移すると想定
- ・業界2番手が損害保険業免許を取得。当社グループを含む保険会社3社、少額短期保険会社6社の市場競争となるが、劇的な変化は想定しない

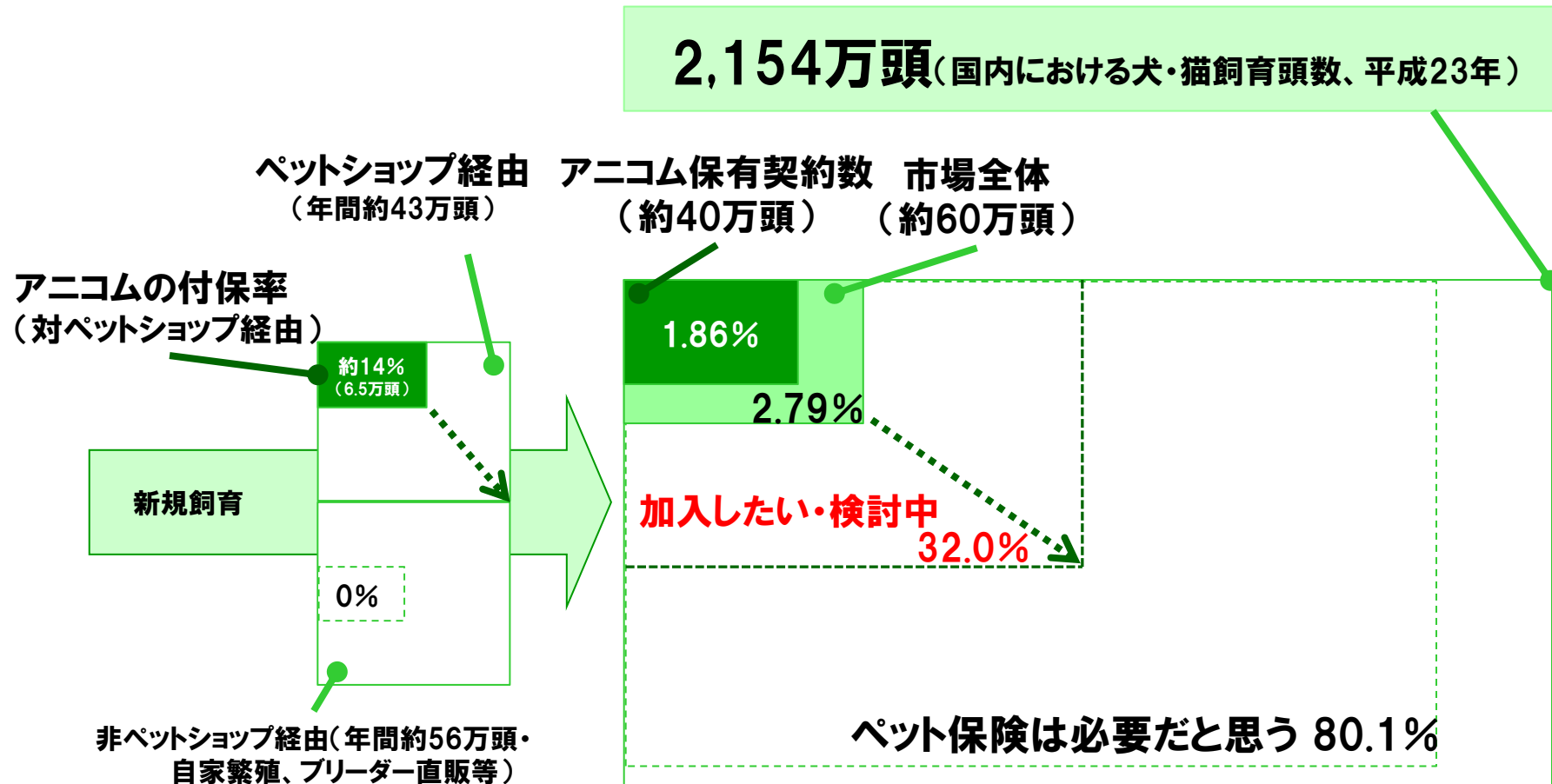
内部環境

- ・補償内容の拡充による商品力Upに伴い、新規契約獲得力は向上
一方、90%補償プランの販売停止により、一時的な継続率の低下を想定
- ・商品改定(補償拡大)の影響により、当期(2013年3月期)までは損害率の上昇傾向が継続するものの、翌期以降は漸減すると想定
- ・2012年8月以降90%補償プランの販売停止及び各種損害率低減施策による緩やかなポートフォリオの変化を想定

- 外部環境、競争環境の大きな変化は想定しておらず、持続したペット保険市場の成長を想定する一方、90%補償プランの販売停止及びその他損害率コントロール施策による収益構造の変化を想定しております。

3-(3). ペット保険市場拡大の可能性

□国内の犬・猫飼育頭数2,154万頭のうち、当社グループのペット保険保有契約数は約40万頭(1.86%)にとどまっております。飼い主の「ペット保険は必要である」との認識は高いことから、ニーズは拡大傾向で推移するものと想定しております。



国内飼育頭数2,154万頭:平成23年ペットフード協会調べ
新生児(ペットショップ経由)43万頭及び新規飼育頭数56万頭:(株)富士経済調べから当社試算
ペット保険契約数(市場全体)608,850契約:(株)富士経済調べ
ペット保険の加入意向:ペット総研調べから当社試算

3-(4). イギリス・北米・日本のペット保険市場規模の推移

□海外ペット保険市場は引き続き、GDPの伸び率(経済成長率)を上回る伸びが続いています。特に北米市場は今後も20%超の成長が見込まれており、ペット保険の認知度はさらに高まるものと想定しております。日本市場においても、成長阻害要因は予見されず、市場は順調に拡大すると見込んでおります。

イギリス市場は2010年以降4年間、対前年比9%成長を予測

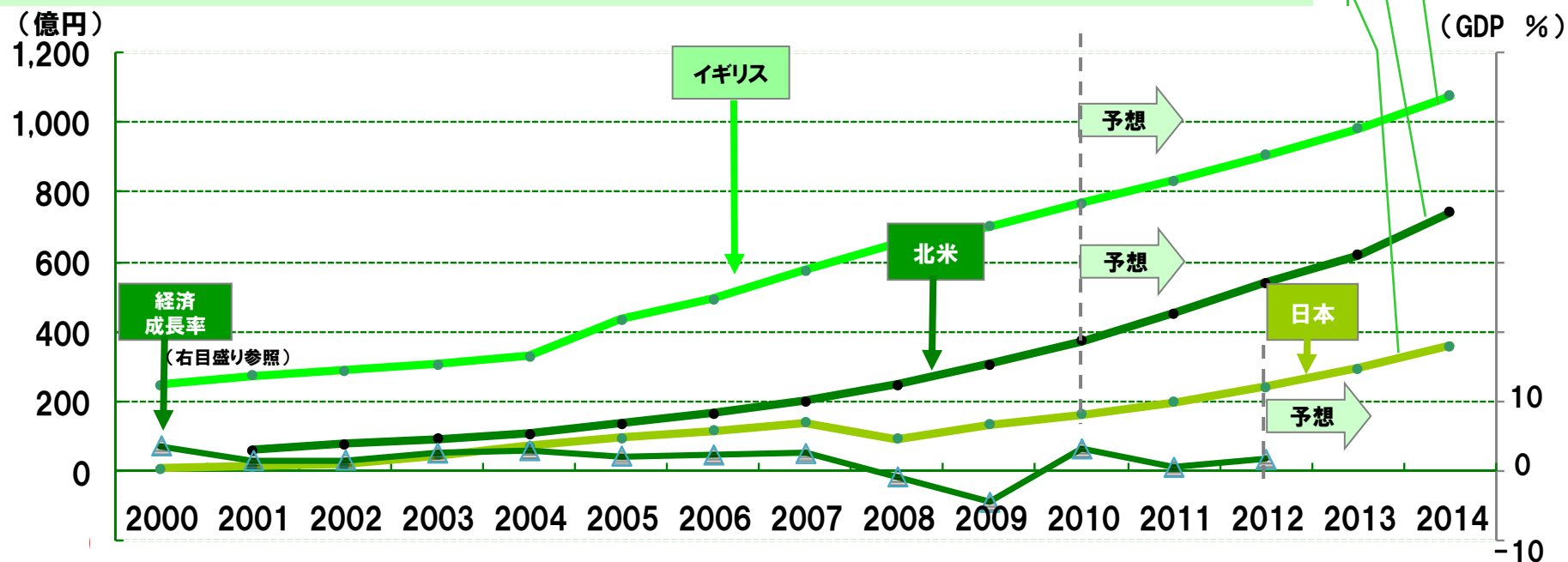
(Datamonitor社『UKPetinsurance2011』)

北米市場は2010年以降5年間、対前年比20%成長を予測

(Packaged Facts社『Pet Insurance in North America,4th Edition』)

日本市場は2012年度以降2年間、対前年比10%超の成長を予測

(株)富士経済『2012年ペット関連市場マーケティング総覧』)



出典: イギリス市場: Datamonitor社『UKPetinsurance2011』・1 £ = 131円換算で算出

北米市場: Packaged Facts社『Pet Insurance in North America,4th Edition』・1 \$ = 82円換算で算出

日本市場: (株)富士経済『2012年ペット関連市場マーケティング総覧』1契約単価31千円で算出

経済成長率: 3カ国の単純平均。(当年のGDP-前年のGDP) ÷ 前年のGDP × 100で算出

3-(5). 中期経営計画の骨子

中期経営VISION

徹底した顧客視点から、商品・サービス品質の向上を図り、
慣性を超える成長を続けるペット保険グループ

10年3月期 11年3月期 12年3月期

ペット保険
営業基盤の確立期

【主な取組み】

- ・08年4月補償開始
- ・ペットショップ代理店網確立
- ・一般代理店網の拡充本格活動
- ・90・70%補償プラン発売

2013年3月期

2014年3月期

2015年3月期

Next
Stage

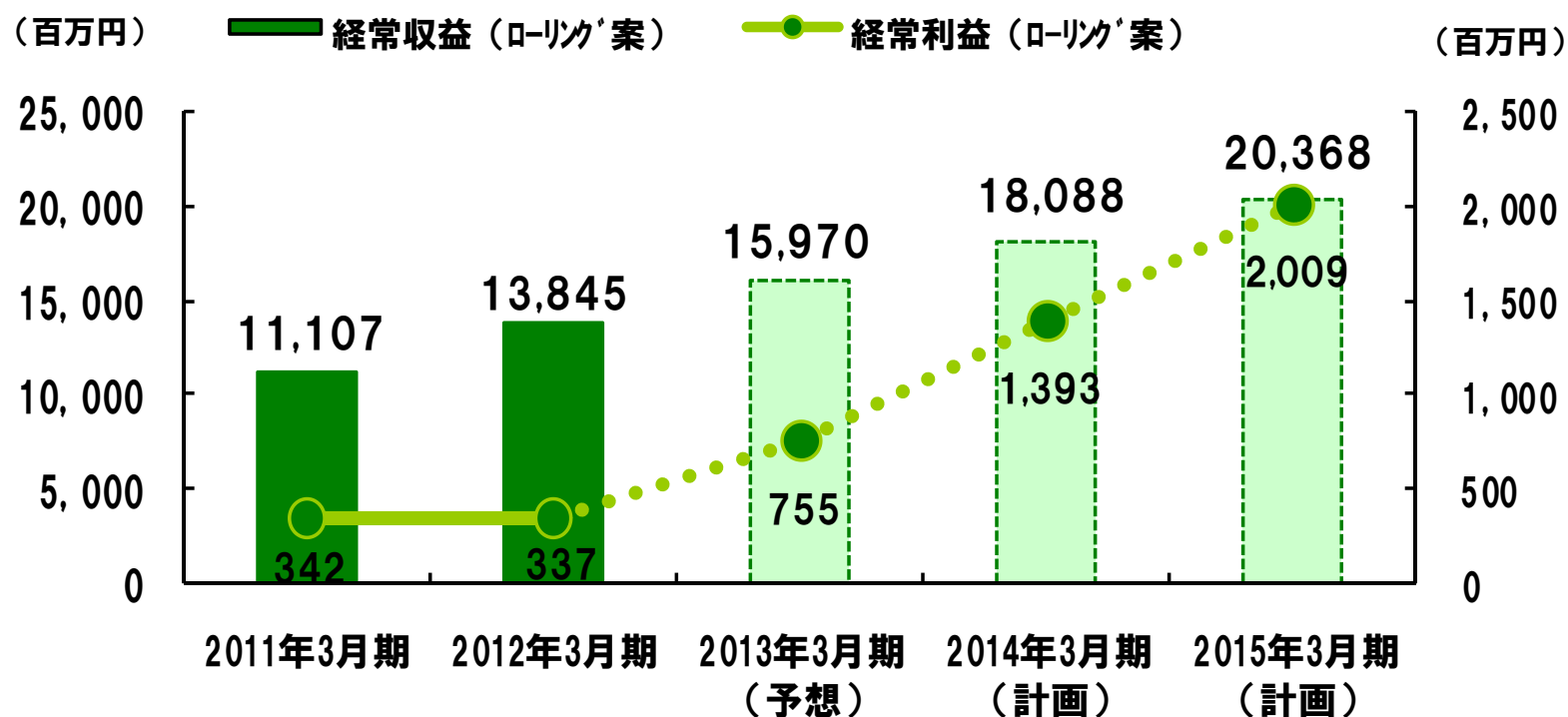
「持続的成長に向けた成長基盤の強化」

【重点施策】

- ①新規契約獲得力の増強
- ②顧客満足度、利便性の向上
- ③収益構造の改善を推進

徹底した顧客視点から、商品・サービス品質の向上を図り、
慣性を超える成長を続けるペット保険グループ

3-(6). 中期経営計画ローリングプラン 連結経常収益・経常利益



(百万円)

	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期 (予想)	2014年3月期 (計画)	2015年3月期 (計画)
経常収益(ローリング案)	11,107	13,845	15,970	18,088	20,368
経常収益(当初案)	-	13,820	16,048	18,733	-
経常利益(ローリング案)	342	337	755	1,393	2,009
経常利益(当初案)	-	260	855	1,429	-

ご参考

【ご参考】IFRSベースでの試算

(百万円)

	2011年 3月期	2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期
経常利益	342	337	755	1,393	2,009
IFRSベース 経常利益 (当社試算)	939	555	703	1,698	2,322

試算方法

- ①未経過保険料算定を「12分の1法」から「24分の1法」へ変更
- ②異常危険準備金は計上しない
- ③113条繰延資産償却は計上しない

注)上記はあくまで当社の想定するIFRS基準(公開草案含む)による試算であり、
監査法人による監査は受けておりません。

【ご参考】 異常危険準備金の計上・取崩しについて

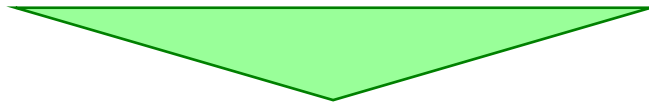
○計上ルール

- 正味収入保険料の3.2%を、異常危険準備金繰入額としてP/Lに計上します。
- B/S上では、負債(異常危険準備金)として過年度分と合算して計上します。

○取崩しルール

- W/P損害率(厳密には異常災害損失率)が50%以上になった場合は、50%を超過した支払保険金相当額を、計上済みの異常危険準備金から取り崩すことになります。

注): 異常責任準備金取崩し計上に係るW/P損害率 = 正味支払保険金 / 正味収入保険料 × 100



○当社への影響

- 商品改定(補償拡大)の影響により、損害率が上昇したため、2012年3月期の期中から、W/P損害率が50%を超過しました。そのため、2012年3月期から異常危険準備金の取崩しを行っています。
- 損害率50%を超過した部分が、異常危険準備金の取崩し額となりますので、超過した支払保険金相当額は、経常利益に対して影響を与えません。ただし、当該超過額が異常危険準備金の積み立て残高を上回った場合は、当該額が経常利益に対してマイナスの影響を与えます。

本資料に関する注意事項

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しております。

これらの見通しと異なる結果を生じさせる原因となる要素は、当社が関東財務局に提出する予定であります有価証券報告書及び東京証券取引所に提出しております決算短信の「事業等のリスク」に記載されておりますが、これらに限られるものではありません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。



お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社 経営企画部

東京都新宿区下落合1-5-22 アリミノビル 2F

URL:<http://www.anicom.co.jp/>